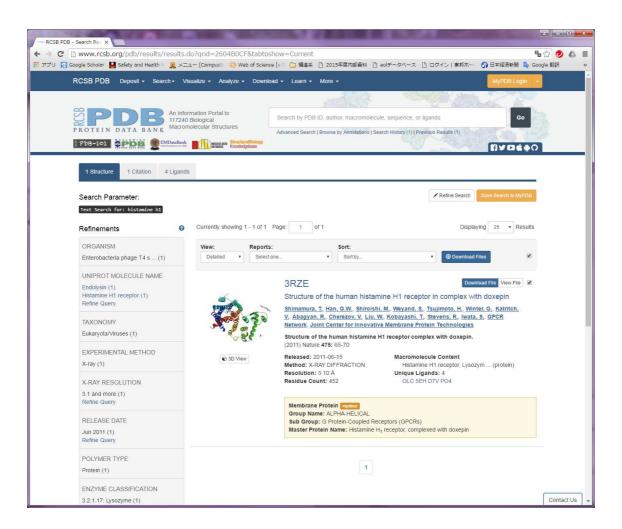
マニュアルはネット上にも他の人のがあるので探してみてください。

1. タンパク質構造データの取得

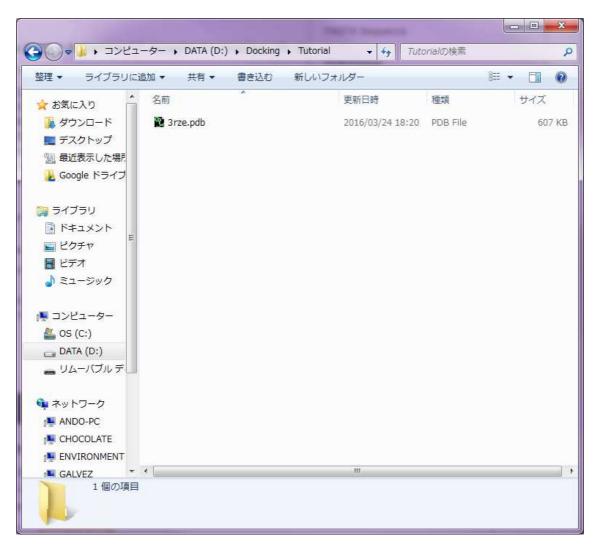
http://www.rcsb.org/pdb/home/home.do へ行き、目的のタンパク質構造で検索する。



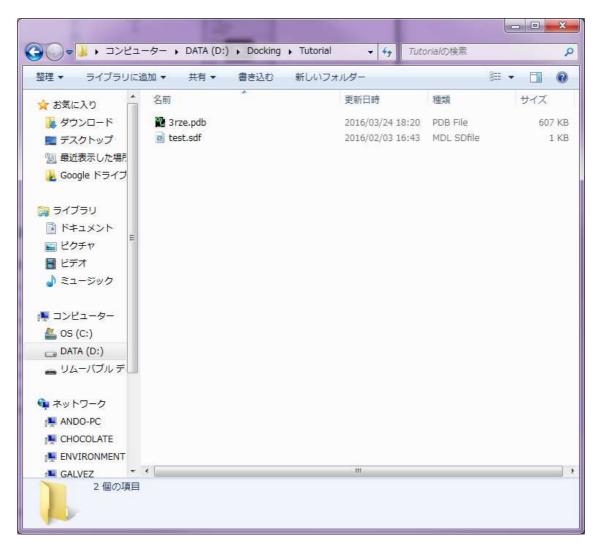




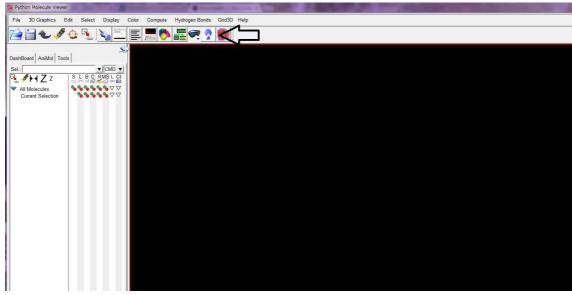
PDB Format を選択しダウンロードする。



2. ドッキングしたい構造を用意する。

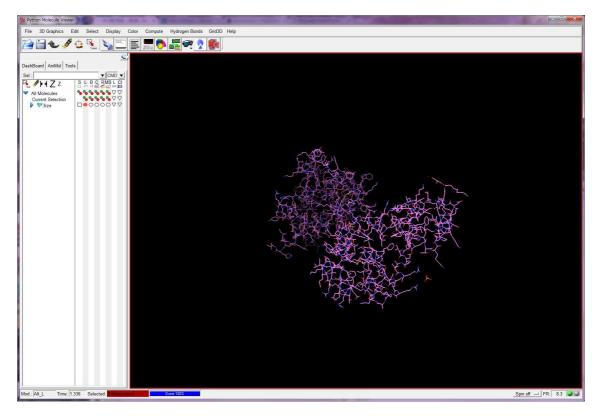


3. Python Molecule Viewer (http://mgltools.scripps.edu/downloads)を開く

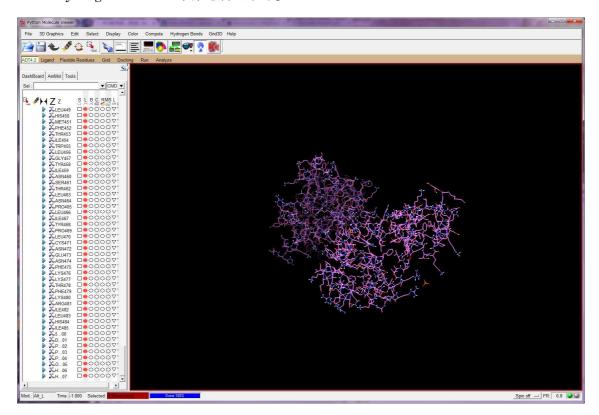


Auto Dock Tools(http://mgltools.scripps.edu/downloads)のボタンを押す

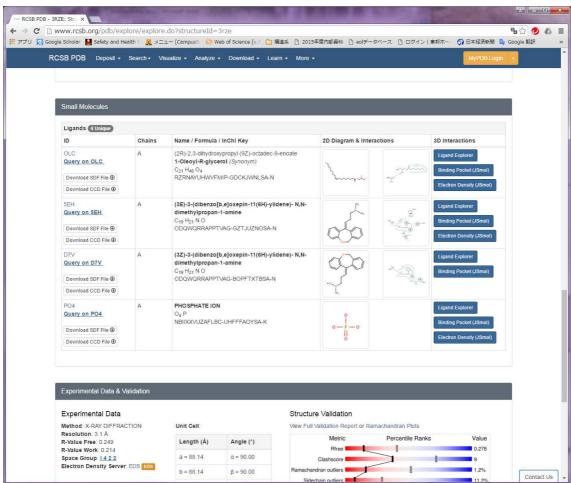
ダウンロードしたタンパク質を開く。



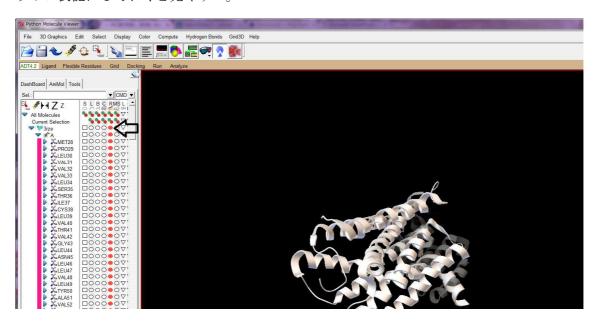
Edit>Hydrogens>add で水素を付加する。

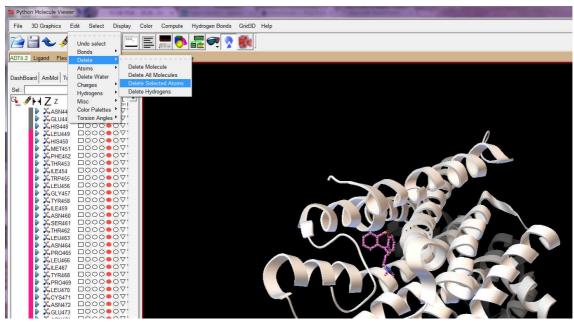


邪魔なリガンドは選択して削除する。この場合 5EH,D7V,PO4,OLC。タンパク質データをダウンロードした際のページで確認が可能。

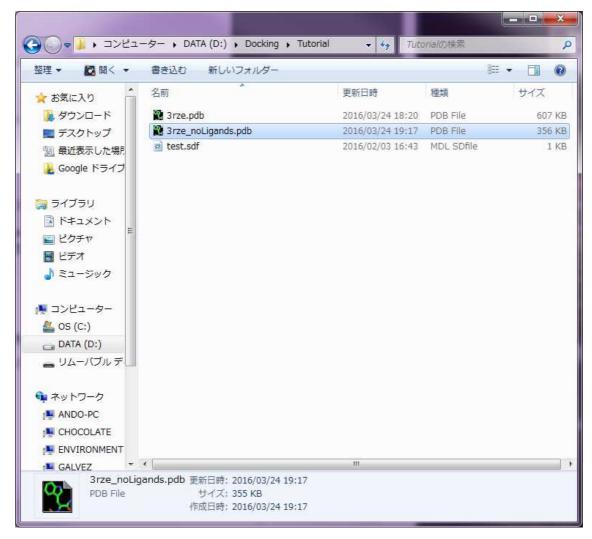


リボン表記にしておくと見やすい。

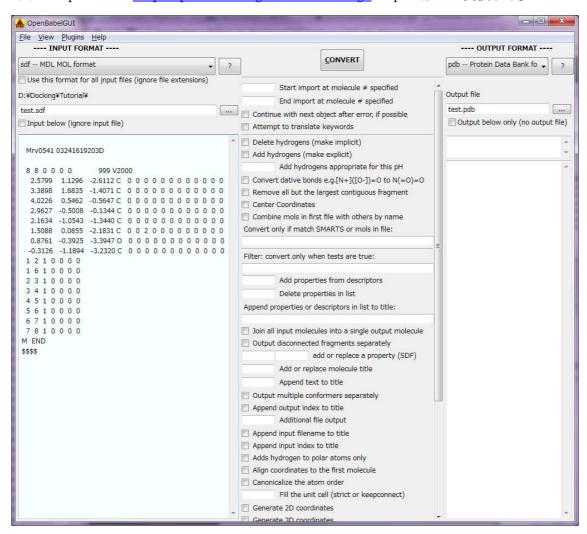


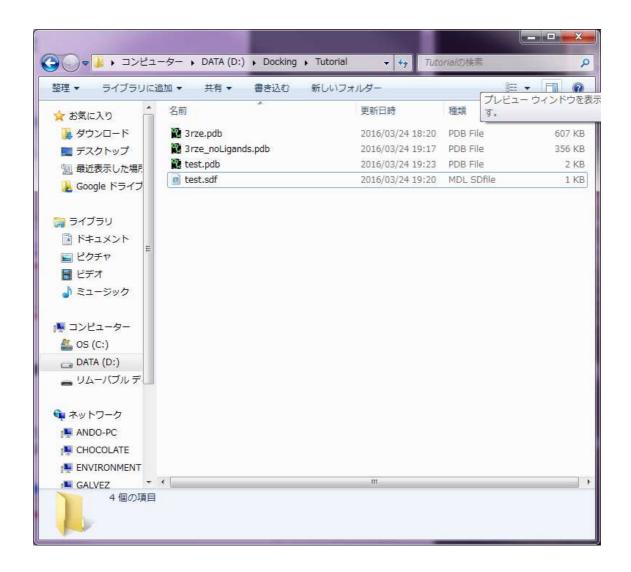


削除したら保存する。



4. ドッキングしたい構造をMarvin sketch (https://www.chemaxon.com/products/marvin/marvinsketch/)で三次元配座に変える。 さらに OpenBabel(http://openbabel.org/wiki/Main Page)で pdb 形式に変換する。

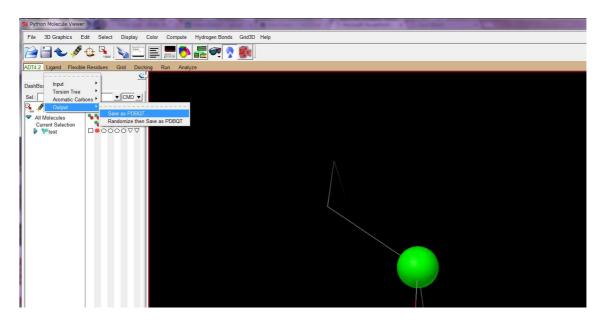


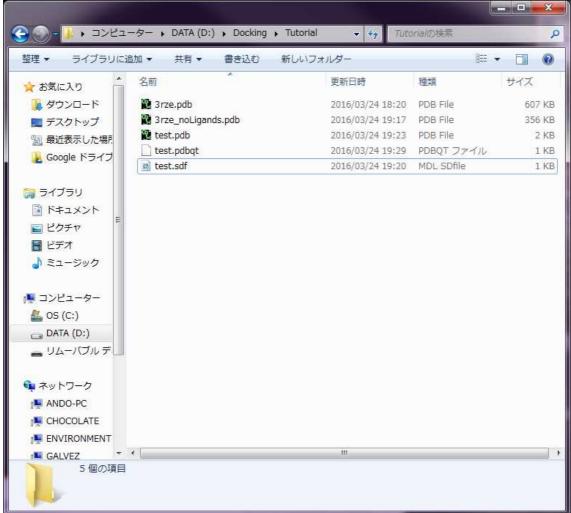


5. ドッキングしたい構造を Python Molecule Viewer で読み込み pdbqt 形式に変換する。 Ligand>Input>Open で読み込み

Ligand>TorsionTree>DetectRoot を選択

Pdbqt 形式で保存



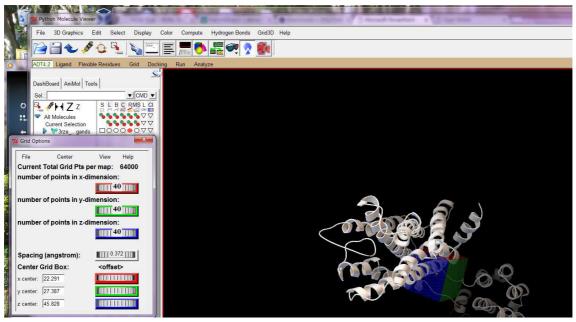


6. タンパク質データを読み込み pdbqt 形式で保存する。

Grid>Macromolecule>Open で pdb ファイルを選択すると自動的に作成される。

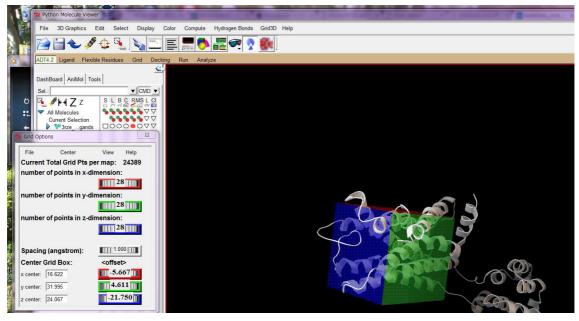
表示をリボン形式にしてグリッドを設定する。設定範囲はもともとリガンドが存在したあたりにするといい。

Grid>GridBox を選択するとウィンドウが現れる。

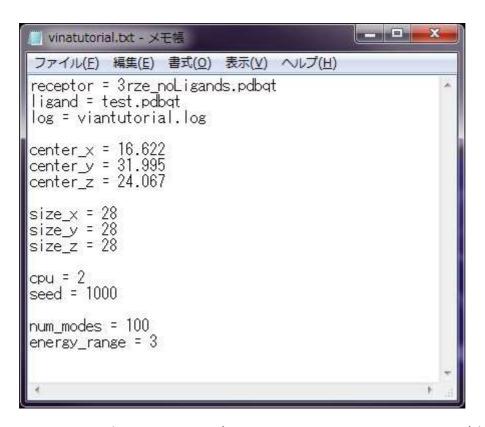


Spacing を1にし、グリッドサイズと位置を選択する。

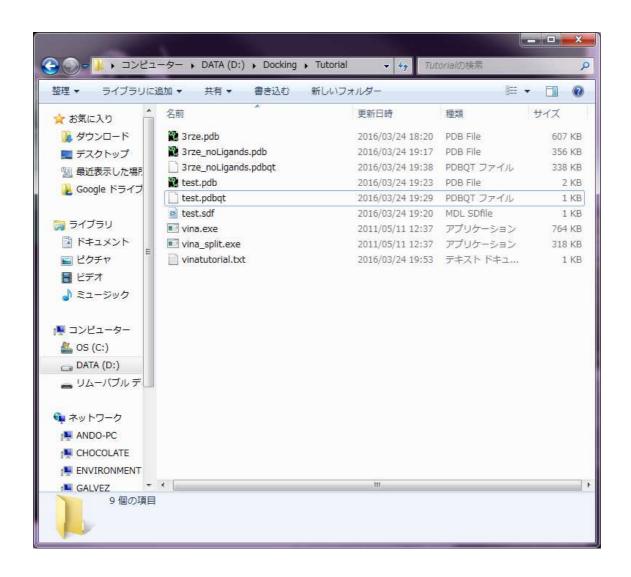
大きさは 27000Angstrom³以下でなくてはいけない。



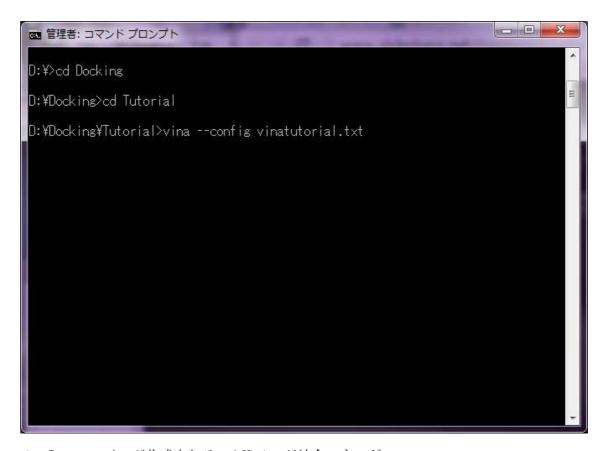
設定した値を自分でテキストファイルに書き込む。



7. vina.exe と vina_split.exe(http://vina.scripps.edu/download.html)をフォルダにコピ



8. コマンドプロンプトを起動してファイルがあるディレクトリで vina --config (作成した設定ファイル)と入力して実行



9. Log ファイルが作成される。Affinity が結合エネルギー

